

# チャネル電流(パッチクランプ)のシミュレータ



1. デバイスにより画面サイズが異なるため、適切なサイズのグラフとなるように、グラフサイズの設定を行う。

- ①膜電位軸のサイズ入力（上のグラフの縦のサイズ）
- ②電流軸のサイズ入力（下のグラフの縦のサイズ）
- ③時間軸のサイズ入力（上と下のグラフの横のサイズ）

2. 温度を設定する（⑮）。

3. 最大シミュレーション時間を選択する（④）。

4. 電位依存性K<sup>+</sup>チャネルか電位依存性Na<sup>+</sup>,チャネルかを選択する（⑤）。

5. ノイズを付加する場合にはチェックを入れ、付加しない場合にはチェックを外す（⑥）。

6. ⑦1ch（13トレースが表示される）かチャネル数指定かを選択する。チャネル数選択の場合にはチャネル数（⑧）を入力する（1も可）。

7. グリッドを表示するか場合にはチェックを入れ、表示させない場合にはチェックを外す（⑨）。

8. 電流軸1目盛の大きさを選択する（⑩）。

9. コマンド電位を設定する（⑪）。（静止電位より始まり時間0でコマンド電位に固定される）

10. シミュレーション実行ボタンをクリックする（⑫）。

11. 時間経過に伴う電位（⑬）とチャネル電流（⑭）が表示される。

12. 必要に応じて、電流軸1目盛の大きさ（⑩）を調節する。

13. チャネル電流をテキストで表示する場合にはtextにチェックを入れ（⑯）実行する。表示されたテキストはコピーアンドペーストで表集計ソフトなどに貼りつけてグラフ化なども可能となる。